

2025年ルール改定について

1 改定のねらい

2025年ルール改定では、世界に発信できる競技規則と採点規則を目指す。

競技規則では女子に合わせた時間設定にすることで、競技運営上の問題点を減らすとともに、よりスピーディーな競技として魅力を高める。採点規則の見直しでは、E 難度の追加により、技術価値による得点の差別化を高める。また審判編成の見直し、採点項目を細分化することで、より分かりやすい得点構成に改定する。

2 主な変更点

(1) 競技規則

- 団体競技を5人制とする（2024年度より施行）
- 団体競技時間を2分15秒～2分30秒とする
- 団体競技における転回数は3回とする

(2) 採点規則

- 得点をより明確化するための得点構成変更

D	難度と加点	価値点と加点の合計
A	技術的価値と芸術性および要求要素の有無	技術価値・芸術・要求要素等に関わるものを10点から減点
E	実施	実施減点を10点から減点
計時	時間に関する減点	決定点から減点
線審	場外減点	決定点から減点
その他の減点	上記以外の減点	決定点から減点 審判長裁量

ア 難度

- D 審判2名で共通の得点を算出
- 演技内の6難度を合計して算出する。
(徒手系難度、転回系難度それぞれ上位難度3つずつを合計する)
- 難度の得点には、追加の難度の加点が含まれる
- 難度の価値点

難度	A	B	C	D	E
価値点	0.1	0.2	0.3	0.5	0.7

- E 難度の追加

単独でE 難度の技	3回ひねり以上 2回宙返り 1回ひねり以上 伸身2回宙返り以上 後ろとびひねり前方2回宙返り以上 上記以上の技
組み合わせE (連続宙返り)	DB CC CBB
組み合わせE (交差)	D/B C/C
個人の格上げE	投げ受けD 転回 投げ4動作

イ 団体競技

競技時間	2 '15~2' 30	
競技人数	5名 4名まで参加可	
転回系の要求要素	回数	3回
	スタート制限	変更なし
	組体操	転回系の組み合わせや空間利用の工夫として A の項目で採点する。 飛ばし技以外の難度は削除する。 飛ばし技で転回系を行った場合は、その飛ばされた転回系の難度を採用するが最高 C 難度までとする。
難度要求数	6つ（転回系3つ、徒手系3つ）	
加点	徒手の加点を削除 CDD の交差 0.3	

ウ 個人競技

競技時間	1 '15~1' 30
難度要求数	上位難度から6つ 転回系3つ徒手系3つ 同じ技は難度を数えない
新たな要求要素	投げタンプリングを入れなければならない
加点	E 転回中の操作 0.1 を追加 D 転回中の操作削除 4 動作削除 2 本投げ 3 動作削除 2 本投げ 4 動作 0.1 全く同じ内容の加点は取らない。

・縄跳びの難度と加点

ロープは加点が取りにくいことと、跳びの多様性が減ってきているため新設

難度の追加	4 重跳び 2 回 E	3 重跳び 2 回 C
加点	様々な跳びに対する加点 max0.1	2 重跳び 3 回以上を含めた移動跳び
		3 重跳び 3 回で、3 回とも体の形を変えて跳んだ場合
		その場での 2 重跳びを回転しながら 3 回以上行った場合

エ その他

- ・ライン減点 一律 0.2 の減点
- ・手具の差し替え 減点なし
- ・技の難度の見直しを検討

(3) 審判構成の変更

- ・主任審判は 1 審を兼ねる
- ・計時 1 名への変更
- ・セクレタリーの追加

審判長	D	A	E	線審	計時	補審	セクレタリー	計
1 名	2 名	4 名	4 名	2 名	1 名	1 名	1 名	16 名